



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな未来をめざして



「しんかんせん！」 ゆたか生活支援事業所あつた 小貝 善吾さん ※紹介が9ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 4.3 職員集会開催 P2～3
- ▶ 2021年度正規採用職員紹介 P4～6

2021年5月10日 毎月1回10日発行 一部100円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会 〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358 <http://www.yutakahonbu.com/>



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

ゆたか福祉会

検索

4.3 職員集会

初めてオンラインで開催！

新年度の節目となる4月職員集会。昨年度は「新型コロナウイルス感染症」という嘗てない経験の中で、開催することができませんでしたが、「2021年度は何とか開催したい！」という思いの中、今回は「対面」と「オンライン」の併用という形で、半日の集会として開催しました。

当日、会場の名古屋国際会議場に参集したのは本部役員と担当スタッフ、2021年度正規採用職員と地域支援事業本部の職員合わせて約50名。他の職員はそれぞれの事業所から又は個人でのオンライン参加でした。

集会では理事長挨拶、自治会連合会・保護者連合会両会長挨拶、2021年度正規採用職員辞令交付式、ゆたか福祉会2021年度事業計画の報告が行われました。

理事長挨拶

「2021年度を迎えて50周年を越えて、新たなスタートを」と題して行われた挨拶は、まず日々事業を支えて頂いた職員への感謝が述べられました。そして「我々のゆたか福祉会の事業とはどのように生まれ、どのような目的や理念を持ち行っているのか、基本を考える1年にしていきたい」と語られました。

世界情勢ではジェンダー問題やアメリカにおけるアジア人への差別、核兵器禁止条約の発効等について触れられました。

ゆたか福祉会の理念を深める点では、「D&I」や柔道家古賀稔彦さんの訃報を報じる新聞記事から「諦めからは何も生まれません。そこで頑張れば新しい自分を発展できる」「私は体罰をしたことはありません」

せん。それは指導の放棄だと思っから」という言葉と、初代今井理事長が挨拶で述べられた「10人の障害者と2・3の職員のためだけにゆたかを応援するのではない。地域と全国の障害者問題の解決と前進のために応援するのである。皆さんはその役割を担って欲しい」という言葉が紹介されました。

最後に理事長は「単に就職先、職場ではなく、この事業を守り、担う一員として、ゆたか福祉会に参加してほしい」と結ばれました。

自治会連合会 石橋会長挨拶

日頃の支援への感謝とともに、「コロナの中で、自治会連合会が開催できない時期が一番大変だった」と振り返られました。「どうしたら早く自治会連合会を開催できるか」と考え、きょうさんの「利用者部会」の活動を活かし、11月からリモート会議へ挑戦したこと。できたことの喜びを「嬉しかった」と話されました。

正規として入職された皆さんへは「ゆたかの職員になってくれて

ありがとう！大変なこともあると思うけど、一緒に頑張りましょう！」とエールが送られました。

保護者連合会 藤田会長挨拶

「コロナ禍の中で先が見えないことで不安がいっぱい」と語られた藤田さん。高年齢者78歳になり、一番悔しいのは「親は生涯現役」ということ。ゆたかに来て38年、一緒に団結して通所施設や身障ホーム、福祉村の建設も一生懸命やってきた。最近、田中先生にお会いし、先生の書いた文献も読んだ。そして「親として弱音を吐く時代ではない」と思った。

障害者の高齢化問題と保護者の高齢化問題に直面しており、生活問題と社会的支援についてどうするのかという問題であること。日本の福祉はまだ未熟であり、理事長が言われたように「運動なくして障害者の福祉向上はありえない」と思っている」と話されました。

また役得で、4月の職員集会で新規採用の皆さんの決意表明を聞

くと「原点にもどって親もがんばらなくてはいけない」と思う。「今後のゆたか福祉会の方向付けのなかに、私たちも入れて頂きたい」と述べられました。

【辞令交付式】

この4月から正規職員となった17名の皆さんひとり一人に、理事長から辞令が手渡されました。また決意表明は代表ではなく、全員の方に行って頂きました。圧倒的に多くの職員が「画面越しでの対面」となる中で、「少しでも皆さんのことを知って欲しい」「会った時にはひと声かけて頂けるように」との思いからでした。

ひとり1分という限られた時間の中で報告して頂いたのは2点。一つ目は研修でアイスブレイクとして取り組んだ「今の気持ちを漢字一文字で表すと…」、又はレポートで提示した「ゆたか福祉会との出会い」のどちらか一つ、二つ目は同じくレポートで提示した「働くうえで大事なキーワード」としました。「現在の研修のしくみ」

や様子もお伝えしたい」と考えたからです。

今の気持ちでは、不安と安心に共通する「安」や、社会人として「挑む、前に進む」「前」、キーワードでは「協調性」「責任」「信頼関係」「笑顔」「他者性」など、様々な思いが報告されました。アンケートでは「大切にしたいことを話され、フレッシュさを感じた」「新入職員当時は思い出し、初心を大切にしたい」「決意表明はぜひ現場でも取り組んで欲しい」などの感想がありました。



【2021年度

事業計画の報告】

後藤本部長からはPPを活用しながら報告が行われました。まず「新型コロナウイルス感染症への対応」6度の感染発生概要と今後へむけた課題・教訓」として、感染発生時期と場所・感染者数などが、その都度「課題と対策」も示しながら報告されました。また名古屋市内の感染率が0.5%であるのに対し、ゆたか福祉会の感染率は6倍の3%であったことも紹介されました。

教訓としては「感染をひろげないための対策を徹底する」「初期・初動対策を迅速に行う」「関連事業所・病院へ迅速に感染情報を提供する」「組織的に動く」の4点が挙げられました。

また「2年目となる今年度の感染症対策のポイント」としては、「全ての事業所で事業継続計画(BCCP)を策定し感染に備える」「法人全体の組織体制の強化をはかる」「地域の関連事業所とのコミュニケーションや連携を深める」「コロナの下での実践の基本」主人公

は「仲間たち」が提起されました。事業計画については16枚のPPにまとめられ、「簡潔で分かりやすかった」と好評でした。



「コロナと向き合う中で学んだこと、それは「今まで当たり前だと思っていたことが、決して当たり前でなかった」という気づきでした。対面での研修もそのひとつです。集会の開催に向け、500名が収容可能な会場も確保しましたが、検討を重ね、今回のような形での開催となりました。

3月初旬には外部会場と各事業所をつなぎ、ネット環境等を確認するコミュニケーションを実施。また当日はレコーディングを行い、YouTubeの限定公開機能を使い、法人内であれば参加できなかった事業所や個人が視聴できるようにしました。常により良いものをめざし、工夫し、一歩前に進めていくことの大事さ、研修活動の新たな可能性も含め、多くのことを学んだ職員集会でした。

研修部長 向幸子

2021年度 正規採用職員紹介



ゆたか希望の家 そや えりこ 征矢 絵里子

趣味・好きなこと
音楽鑑賞、旅行

私は、言語聴覚士として発達障害児に関わっていたことがあり、その中で、「子供たちが社会に出てどの様に生活するのか」が気にかかっていた。そして、転職を機にゆたか福祉会と出会い、障害者が安心して、生活や活動・仕事をできる場を創っていく事に協力したいと思い、入職を決めました。

まず、仲間の高齢化での嚙下障害に対して、できるだけ長く、安全に美味しく食事を摂って頂けるよう、皆さんと一緒に試行錯誤していきたいと思っています。

今年度も17名の方が、正規採用職員として新たなスタートをしました。研修の最初のレポートテーマは「ゆたか福祉会との出会いと働く思い」。経営理念「わたしたちの大切にするもの」や、「働くうえで大事なキーワード」を語り合い、「その人を知る」機会としました。初心を忘れず、共に育ちあえる職場づくりを進めていきたいと思っています。



ゆたか希望の家 もりした なおき 森下 直輝

趣味・好きなこと
スノーボード、スケートボード、釣り

私は大学3年生の時に社会福祉士の実習で、障害者の就労継続支援B型に行きました。そこで、障害者が活き活きと作業をしている様子や、工賃を貰い喜んでいる姿を見て「私も力になりたい」と思いました。

そして会社説明会や採用実習で、仲間が主体となり作業をしている様子を見て、ゆたか福祉会に入職を決めました。

先輩方を見習い、仲間が笑顔でゆたかな日々を過ごせるよう支援していきたいです。



ゆたか希望の家 みずした 水戸 うらら

趣味・好きなこと
ドラマを見ること、音楽を聴くこと

障がいのある方たちとたくさん関わること、そして施設と地域との繋がりへの強さに魅力を感じ、入職を決めました。

3日間の実習では、職員さんと仲間の皆さんとの雰囲気の良いところがとても印象に残り、「ここで働きたい」と強く感じました。

これから、たくさん分からないことがあると思いますが、職員さんそして仲間の皆さんから様々なことを吸収して、仲間のゆたかな暮らしのお手伝いができるよう、精一杯がんばっていきます。



リサイクルみなみ作業所 まつだ るみ 松田 留美

趣味・好きなこと
ショッピング、ドラマを見ること

『作業所』の存在を知ってから、活き活きと働くなかまの姿に「私も働きたい」と思い、ゆたか福祉会に出会いました。

自分たちの仕事に誇りをもって、互いを認め合うなかまたちの姿から、教わる事がいっぱいです。なかまの「できた!」を共に喜び、職員と「すごいね!」を共感する日常は充実した毎日です。

なかまたちに笑いをもらい、いつもパワーチャージしています!これから、新たな気持ちで、一から学んでいきたいと思っています。



つゆはし作業所 いけの まこ 池野 真子

趣味・好きなこと
スポーツも好きですが、のんびりすることも好きです

大学で所属していたサークルの先輩が、ゆたか希望の家のアルバイトを紹介して下さったことがきっかけで、入職させていただくことになりました。

先輩はいつも元気で明るく、周りにいる仲間や職員はみんなニコニコ笑顔でした。私も「池野さんといると楽しいな」「気持ちが楽になるな!」と思ってもらえるような職員になりたいです。

まだまだ力不足ではありますが、仲間の皆さんが楽しくお仕事ができるよう、私自身も楽しみながら頑張っていきたいと思っています。



リサイクル港作業所 かとう ふきこ 加藤 富紀子

趣味・好きなこと
水泳、自転車、ランニング

「子育てがひと段落ついたら、正規職員として働きたい」と思い、登用制度のあるゆたか福祉会に事務パートとして入職しました。

障害を持った方と接したことがなかったので不安もありましたが、働いてみると、とても自然に打ち解ける事が出来ました。

まだまだ分からない事がたくさんあり、予算や決算の度にあたふたしてしまいますが、なかまとの関わりを大切に、目の前の仕事からひとつずつ確実にこなしていきたいと思います。



ふれあい共同作業所 なかむら みゆう 中村 美憂

趣味・好きなこと
スポーツ、旅行

ゆたか福祉会との出会いは、知人に声を掛けていただき、ゆたか福祉会についてお話をさせていただいたのがきっかけでした。

未経験の私でしたが、見学や実習の際に仲間や職員の皆さんが優しく受け入れて下さったことで、パート職員として入職することを決めました。

今年度からエリア採用職員となりました。仲間と目線を合わせて“一緒に”活動を行っていくことで、仲間たちが安心して楽しく過ごせるよう、日々支援に励んでいきたいと思っています。



ゆたか生活支援事業所みどり あさい けんすけ 浅井 謙介

趣味・好きなこと
レコード集め、猫観察

三年間の家族の自宅介護生活をきっかけに、「ゆたか生活支援事業所みどり」で働くことになりました。四年のパート勤務を経て、4月より正規職員となります。今まで経験不足で、わからないことばかりで失敗したことも多くありましたが、職員や仲間たちに助けられてきました。

今後は正規職員として、新たな気持ちで学ばせていただきたいと思っています。仲間たちが安心して暮らせる生活、仲間の気持ちを大切に寄り添える支援を目指したいと思います。



ゆたか生活支援事業所みなみ チャウ ティ ミー リン CHAU THI MY LINH

趣味・好きな事
音楽鑑賞、旅行、読書

大学生3年の時、ゆたか福祉会でいろんな体験ができて、仲間たちと一緒に遊んだり、働いたり、仲間たちの笑顔を見た時、私も幸せな気持ちになります。

私が働く上で大事だと思うキーワードは『笑顔』です。笑顔が一番相手を安心させます。誰かに出会った時に挨拶をしますが、その時に見せる『笑顔』は相手を安心させます。つらい時にも笑えば何とか乗り越えられたり、笑顔が一番素敵だと思います。

仕事中はわからないことが多いので、これからもっと頑張りたいと思います。



ゆたか生活支援事業所なるお きとう はるひ 鬼頭 晴日

趣味・好きなこと
絵を描くこと

私はこれまで、特別養護老人ホームで仕事をしていました。「自分自身の仕事の幅を広げたい」「新しい事に挑戦したい」という想いで、就職活動を行っていた際に、ゆたか福祉会にご縁を頂く事ができました。

グループホームでの仕事には不安もありましたが、希望の家でアルバイトもさせて頂き、新しい仲間の方や職員さんと仕事ができる事が楽しみになりました。

初心を忘れず頑張りますので、ご指導のほどお願い致します。



ゆたか生活支援事業所なかがわ みずの くみこ 水野 久美子

趣味・好きなこと
映画鑑賞、スイーツ

ゆたか福祉会に興味を持ったのは、就職活動のなか、海外研修にも力を入れている点に惹かれ、説明会に参加したのがきっかけです。説明会や実習での明るい雰囲気と、様々な経験ができることへの期待から入職を決意しました。

一人ひとりの仲間が自分らしく生活できるよう、支援していきたいと考えています。そのためにも、笑顔をお忘れずにいたいです。

至らない点があるかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願い致します。



ゆたか生活支援事業所かさでら
すぎうら ちさと
杉浦 智里

趣味・好きなこと
音楽鑑賞、尺八を吹くこと

大学4年生の就職活動中に、ゆたか福祉会と出会いました。実習中に、仲間一人一人が生き生きと仕事をしている姿や、仲間の意思を汲んで行動する職員の姿が印象に残り、「ここで働きたい!」と強く思うようになりました。

大学で福祉を専門的に学んでいないため、不安なところも多くありますが、先輩職員方の知識や技術を吸収し、仲間頼られるような職員になれるよう精一杯頑張ります。



ゆたか生活支援事業所あつた
かわまつ りょうた
川松 亮太

趣味・好きなこと
象に乗ること(有資格)

私とゆたか福祉会の出会いは、大学3年生の時に行った希望の家での社会福祉士実習です。私はそれまで障害を持った方と関わったことがなく、大変、貴重な経験や学びを得ることができました。

これからも、今まで得た経験や学びを活かし、仲間と共に新たな可能性を発見できるように精進していきたいと思えます。



あかつき共同作業所 かわはら きょうこ
河原 京子

趣味・好きなこと
ドライブ、ゆるく集める(ダムカード・御城印、御朱印)、トラス構造、渋ビル

入職のきっかけは「あかつきヘルパーステーションはなキリン」が開催したガイドヘルパー講座第1回を受講したことです。

その後、ヘルパーの経験を経て、あかつき共同作業所で働くようになり、この4月から正規採用職員になりました。出逢いの縁とは不思議なものだと改めて感じます。

仲間たちの笑顔に助けられる日々ですが、仲間たちと楽しく過ごすだけでなく、時には一緒に悩んだりチャレンジしたりして、共に成長していきたいと思えます。



ワークセンターフレンズ星崎 かわい さよ
河合 紗代

趣味・好きなこと
剣道、スノーボード、ダーツ、映画鑑賞、御朱印集め

フレンズ星崎の事務員として働きだして5年が経ちました。福祉関係の仕事は未経験だったので、はじめは戸惑いや不安がありましたが、今は「楽しさ」と「やりがい」を感じています。

仲間達と関わる機会も増えて、福祉のことを「もっと知りたい!」と思うようになり、新しいことに挑戦できる環境にも惹かれて、エリア採用での入職を決めました。

事務員としてだけでなく、支援者としてもさまざまな場面で仲間たちに貢献できるように頑張ります。



デイサービス宝南 こばやし みさき
小林 美咲

趣味・好きなこと
料理、散歩

ゆたか福祉会とは、昨年3月の合同企業説明会をきっかけに出会いました。

実際に見学をさせてもらった際、明るく、多くの笑顔がとても印象に残り、「ここで働きたい」と思い、入職を決めました。

福祉についての知識が不足しており、覚えることが多いので不安も大きいですが、先輩職員の方々に相談をしたり、頂いたアドバイスを大切に、一日も早く覚えていきたいです。

ご指導のほどよろしくお願い致します。



第2ゆたか希望の家 ました あきら
眞下 明

趣味・好きなこと
映画鑑賞

ゆたか福祉会との出会いは、去年の4月頃でした。当時の私は、大学4年生であり、就職活動中でした。そこで知人から、「長く働ける職場だよ」と紹介をして頂いたことがきっかけで、ゆたか福祉会と出会いました。

私は大学では経済学を学んできました。なので、福祉に関しては全く知識がありません。これから先輩職員や仲間へ教えて頂きながら、みなさんとより良い関係を築きあげ、そして、より良い支援を目指していきたいと思えます。

新所長紹介



ゆたか通勤寮 いちかわ しんご
市川 新吾

ゆたか福祉会に入職してから、ゆたか通勤寮で約3年半、「相談支援事業所ゆたか通勤寮」で約5年、主に軽度知的障害を持たれた方の自立生活の支援などに携わらせて頂きました。

私は難しい事を説明されても、「結局、何をすれば良いの?」と思うことがよくあります。ですが、それは利用者への分かりやすい説明や支援を考える上で、活かされることもあります。

自己満足に陥らないように、利用者にとって分かりやすい支援を心がけていきたいと思っています。



ゆたか生活支援事業所なかがわ とりた ひろすけ
鳥田 広祐

昨年度、私たちの生活は一変しました。新しい生活様式・価値観・取り組みが生まれていく時にいるのだと思います。そのような中で、事業所のリーダーとして時代に合った形で考えて、動いていけるチャレンジャーでいたいと思います。

「井の中の蛙」「裸の王様」にならないように、事業所の利用者・職員の思いや権利を大切にしたい運営をめざし、with コロナでの利用者の暮らしの質を上げる工夫や、取り組みを模索していきたいと思っています。



グループホーム宝南の家 まつお あきこ
松尾 陽子

ゆたか福祉会に入社し、認知症の高齢者の支援にかかわり、その人らしく生活する場を支援する大切さを日々感じています。

昨年度は、支援者から指導者へ立場が変わり、今までは感じなかった不安を痛感した一年でした。不慣れな部分でご迷惑をおかけしないよう、グループホーム宝南の家の入居者や、職員・ご家族様、そしてサポートしてくださるたくさんの人たちから学び、ひとつひとつ成長していきたいと思っています。



なるみ作業所 すざわ まる
須澤 守

長年働いた生活施設から初めて日中事業所に異動したのが昨年のこと。「何年働いてもまだまだ知らないことがあった」ということが新しい発見で、刺激的な1年でした。

今年度からは管理者として、初めてのことで不安はないとは言いきれませんが、日々学びながら精一杯ついていきます。

まずは当たり前のことを当たり前に行うこと。事業所と法人の歴史を繋いでいくその一部を担えたらと思います。



ゆたか生活支援事業所みどり いしだ もとき
石田 誠樹

事業所みどりの所長代行になります。今までは、仲間の事を中心に仕事をしていましたが、施設全体を見ていかなくてはならない立場になりました。

自分にとって苦手な部分も多々あり、戦々恐々ですが、熊谷さんの力もかりながら、事業所がより安心して暮らせる場、安心して働ける場となるように尽力していきたいと思っています。

何かと迷惑をかけることもあるかもしれませんが、どうぞよろしくお願い致します。

新副所長紹介



ゆたか希望の家 こざわ ゆうた
小澤 勇太

副所長として自分が任せられた役割は、希望の家が大切にしてきた理念でもある「その人らしく生きる」を少しでも実現することです。

具体的には、「今ある個別支援計画をよりいいものにしていくこと」が必要になりますが、自分ひとりの力では、重度の知的障害を持つ仲間からニーズを拾い上げることはできません。しかし、希望の家は仲間を中心として多職種が連携しているので、これを最大限活かして仲間にとって大切なニーズを見つけていきます。



ゆたか生活支援事業所みどり くにしま たかし 國島 昂

「私なんかが副所長の役を担うことが出来るのか…」という不安はまだ拭えません。けれども先輩職員を始めとする現場職員のみなさんが、未熟な私に対して根気強くして下さった指導や、仲間との日々の経験、研修を通じて培ってきた私の実力の全てを発揮して、現場での業務のみならず、地域支援に関わる課題などにも取り組んでいきたいです。

まずは新しい仕事を一つ一つ丁寧にこなしていくことが出来るように、頑張っていきます。



ゆたか希望の家 とみなが ありさ 富永 安理沙

入社して10年、転勤することなくゆたか希望の家で働き続けてきました。生活支援員を9年行い、昨年度から管理栄養士として働いてきて2年目の今年度です。

副所長としての重みはもちろんですが、前任の栄養士さんとの引継ぎを行い、栄養士の重みも感じている毎日です。「支援員経験のある栄養士」「専門職が管理職になる意義」など、背中を押してくれた方々の言葉を胸に、私らしく少しずつでも貢献が出来るようになればと思います。



ライフサポートゆたか はやせ しげる 早勢 滋

私は2012年から「ライフサポートゆたか」でパート職員として働きはじめ、3年前に正規職員となりました。

ゆたか福祉会を通して多くの「つながり」ができ、個人としても事業所としても支えられ、成長させて頂いております。

今年度から副所長となりました。肩書きだけではなく、中身も充実していけるよう様々な方にご指導頂きながら、成長し、「つながり」を広げていくことで誰もが安心して暮らせる地域づくりに貢献できたらと思います。



ゆたか生活支援事業所あつた あずま りょう 東 諒

「ホーム白鳥」が2013年10月に開所し、アルバイトとして入職した頃から現在まで、当事業所で勤務しています。

正規職員として7年目、仲間と沢山の経験をしながら共に歩み、多くの職員に助けられながら働く事ができました。これからは、仲間の暮らしを守りつつ、職員の働き甲斐と支援の向上を考えながら、事業所運営をしたいと思っております。

まだまだ未熟な部分が多い私ですが、管理職として相応しい動きができるよう日々、精進していきます。



春を探しに〜みらいろ〜 きれいな桜と仲間の笑顔

2020年度はコロナウイルスの影響により、外出や行事等が中止となり、楽しみが少なくなっていました。そんな中、自治会から「お花見に行きたい」と要望が出され、3月31日に班ごとで近くにある荒子川沿いの大きな桜を見に行きました。

当初は名古屋の満開予想日、3月27日に合わせて出かける予定でしたが、あいにくの天気で延期。「この雨で桜が散らないか」と心配していましたが、4日後のこの日は快晴でお花見日和となりました。

当日の朝、改めてお花見に行くことを伝えると「やったー！お花見だ」と言い、喜びながら出発する仲間の皆さん。桜がまだ見えない道中でも、後ろ姿からは嬉しそうな様子が伝わってきました。いつもは歩行に不安がある仲間も、桜を指して自分の足で頑張って歩いて行きました。

しばらく歩き、角を曲がると桜が見え「おー！」「さくらだー！」と仲間から歓声があがり、「さくら あるよー」と他の人に教えている仲間もいました。橋の上からは、届きそうで届かない桜に手を伸ばし、春を満喫。写真を撮る時には背筋がピンと伸び、少し緊張している表情が見られましたが、マスク越しからでも笑顔になっているのが分かりました。

りました。

「桜が素晴らしかった」「お花見をしながらお酒を飲んで、バーベキューがしたいな」「来年も皆と一緒にいきたい！」等々、嬉しそうに話していた仲間の姿が印象的でした。

大峯穂乃海



表紙の作者紹介

「しんかんせん！」

ゆたか生活支援事業所あつた
小貝 善吾さん

小貝さんは2013年から「ホーム白鳥」に入居し、地域生活をされています。ホームでの食事会や仲間の誕生会では、乾杯の音頭を取り「かんぱーい！」「おめでとうございまーす！」と盛り上げたり、日帰り旅行ではアロハダンスを披露してくれる一面もあります。行事や旅行が大好きな小貝さんです。

新幹線の絵は、鉛筆の下書きから始め、色味を吟味しつつ、4時間程集中されて完成させました。今年はコロナウイルスの影響もあり、旅行に行けない状況ですが、以前は週末の帰省に合わせて、ご家族の皆さんとよく旅行に行っていました。

「また皆と一緒に、新幹線に乗って旅行に行きたい！」という思いが込められている希望の絵です。



3月

日誌

- 2日(火) 2年目研修
- 3日(水) フ工科大学「介護技術講習」
～7日
- 5日(金) 2020年度正規採用職員
「まとめ」研修
- 8日(月) 事業運営推進会議
- 10日(水) 主任研修
- 13日(土) 強度行動障害者支援者養成講座
「基礎研修」～14日
- 16日(火) 2021年度正規採用職員研修
- 17日(水) 副所長会議
- 18日(木) 2021年度正規採用職員研修
- 20日(土) 理事会
- 22日(月) 2021年度正規採用職員
「援助担当者会議」/研修部会議
- 24日(水) 広報・ホームページ編集委員会
/所長会議
- 26日(金) 新管理職研修
- 27日(土) 評議員会

一般寄附(3月)

佐藤 正巳

賛助会員新規加入者・更新者(芳名一覽)

(4月5日～4月8日手続き分) 順不同敬称略

佐藤よし子 星野 信子

丸山 了治

※利用者・保護者・職員の皆さんからも多くのご寄附をいただきました。

ありがとうございました

広報・460号

2021年5月号(2021年5月10日発行)

定価1部100円

法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます

発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会

印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協会会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協会会費 = 年間1口6,000円、
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

・三菱UFJ銀行 柴田支店 普通預金 291-884
・中京銀行 鳴海支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

高齢期の 障害者家族の生活問題と社会的支援

第5回

親を看取る・思いを受けつぐ

先日、ゆたか福祉会内で家族の高齢化についていろいろな方にお話を聞かせていただいている中で、親を看取る・親の思いを受け継ぐことの意味について教えていただいたけいこさんとのぶおさん（両方とも仮名）のことをご紹介します。

けいこさんとのぶおさん親子

けいこさんは、昭和1桁生まれで、20歳頃のぶおさんを産みました。のぶおさんは、就学年齢になると地域の小学校に入学しましたが、多動などの行動が見られ、遠方の障害児学級のある小学校を紹介されました。小4のときに、専門の療育施設に親子通園することを勧められたのですが、多動ののぶおさん連れて公共交通機関で移動することが難しく、児童施設に入所されました。その後、のぶおさんが中学生になったころ、父親が亡くなり、20歳頃に、ゆたか希望の家に入所されました。

のぶおさんが希望の家に入所されたと同時に、少しでも子どもと一緒にいたい、子

どもが世話になる施設の役に立ちたいという思いで、けいこさんも調理の仕事に入れることになりました。その当時の記録を読むと、のぶおさんも施設内に母の姿を認めると、とても穏やかに過ごすことができた様子がうかがえます。しかし、5年ほど働いた時点で、けいこさんは体調不良を理由に調理の仕事を辞めざるをえませんでした。のぶおさんは、施設内で母に会えなくなったさみしさから多少荒れてしまった時期もあるようですが、信頼している職員を心の支えに施設内で自分の暮らしを築かれています。けいこさんは、職員がのぶおさんに対して、どんな場面でも根気強く対応する様子に、この施設は自分の息子を受け入れてくれるという実感が持てたことで、法人に対する信頼を寄せていかれたようです。けいこさんは、家族会などの行事に欠かさず出席して、施設に来られた際は、のぶおさんの洋服の入れ替えなどこまめにされていたそうです。

施設に遺言を託す

けいこさんが80歳を過ぎたある家族会の後、当時の所長に「相談したいことがある」と呼びとめたそうです。手には、自分が一のことがあったときは、すべてを法人に託したいという旨の文書を準備されていて、家の鍵も預かってほしいと言われたそうです。所長は、自分では、成年後見人にはなれない旨を伝え、知り合いの弁護士事務所と一緒に訪問し、その後、公証人役場で遺言を作成するのにも立ち会いました。遺言にはけいこさんに何かあったときには、後のことすべてを法人に任せたい、自分の財産は法人に寄付したい、自分と子どもは自分が準備したお墓に一緒に入れてほしいと書かれていました。

ある日、けいこさんから骨折で入院した旨の連絡があり、担当職員がお見舞いに行くこと、実際は、内臓の深刻な病状であることが分かりました。退院後は家族会に出席する体力がなく、職員がのぶおさんをつれて母と家の近所で夕食を楽しんだそうです。





佛教大学
田中 智子

その後、しばらくすると、親類の方からけいこさんが、自宅で倒れて入院するという電話があり、のぶおさんを連れてお見舞いに行くと、今週末が峠といわれ、その3日後に亡くなられたそうです。

亡くなられた後のことは、親戚より、施設にお任せすると言われました。遺体は火葬場にて直葬され、施設長と家族会の代表が立ち会い、見送りました。その後、骨を施設に持って帰りしばらくは事務所で保管していましたが、家族会の方が自分のお寺に頼んで預かってもらうよう手配をされました。その後、成年後見人による遺産の整理などが終わった約1年後に母が生前買っていた県外のお墓に施設長と家族会の代表者で納骨しました。

けいこさんが亡くなった部屋からは「いつかあの世で我が子と再会した折には、今までの子不幸を償いつつ仲良く旅を続けたいと思います。どうかその日が来るまで、のぶおをくれぐれもよろしく願います。…のぶおの万一のときは葬儀はできませんが、仲間の皆さんのお気持ちでお別れ会でも行っていただければ、のぶおも良い思い出をもって私のところへ来てくれるような気がいたします」という施設長宛の手紙が出てきました。そして、部屋の様子から「とても質素な暮らしぶりだった」ことがうかがえるけいこさんは、そんなに多くはない

年金からのぶおさんのためを思って貯めていたお金の一部を法人に寄付として託されたそうです。

のぶおさんは、けいこさんが最後の入院や亡くなった際には職員と一緒に行き、その後大きく調子を崩すことなく施設での生活を続けておられるそうです。

高齢になるまで頑張ってきた 親の孤立とつながり

昭和1ケタ生まれで障害のある子どもを女手一つで育ててきたけいこさん。最後の手紙を一人、部屋でどのような思いで書かれたのでしょうか。親戚や地域の付き合いもほとんどされることなく、子どもに会うことをだけ楽しみに、自分のためにお金や時間を使うことはほとんど無かった生活でした。自分の最期を託す関係者もいません。けいこさんが子育てをされてきた時代は、就学猶予や免除などもあり、障害者を受け入れる社会資源も限られていました。行動障害のある息子さんの行く末を常に気にしながらの人生で、最後は息子と二人で入るお墓を準備されました。施設に対しても特に要望などは出されることなく、最後にご自身の体調が悪くなったときにも心配をかけまいという心配りをされた方でした。時代的にも女性であること、シングルマザー

であること、障害のあることがいること、いくつもの生きづらさが重なった人生だったのではないかと思います。

ある意味、親戚や地域からは孤立していたともいえるけいこさんですが、今回、私はけいこさんの人生に関わった3人の職員からお話を聴きました。のぶおさんが入所され、けいこさんが調理の仕事に携わられた当時の所長をされていた鈴木峯保さん、万が一のときについての相談を受け、遺言書の作成にも立ち会った元所長の伊藤浩さん、最期を見送った現所長の倉地伸顕さんです。3人それぞれが、けいこさんののぶおさんに対する思いや自分の行く末についての話を持ちかけられているのですが、いざその時に自分がやれるかどうかは分からないけれど、きちんと引き継ぐから安心して欲しいというメッセージを伝えておられます。倉地さんは、10歳ほど年上ののぶおさんを順番でいけば、自分が見送るだろうから、そのときが来たらけいこさんとの約束通り、のぶおさんをけいこさんの隣に眠らせてあげたいと言われます。家族ではないけれど、家族以上の存在として歩まれる職員の姿、そして思い出も含めて引き継いでくれる人がいるという安心感子どもを残して逝く親にとってはかけがえのない安心につながるものだと思います。

障害者の「親なき後」問題と成年後見制度

第5回

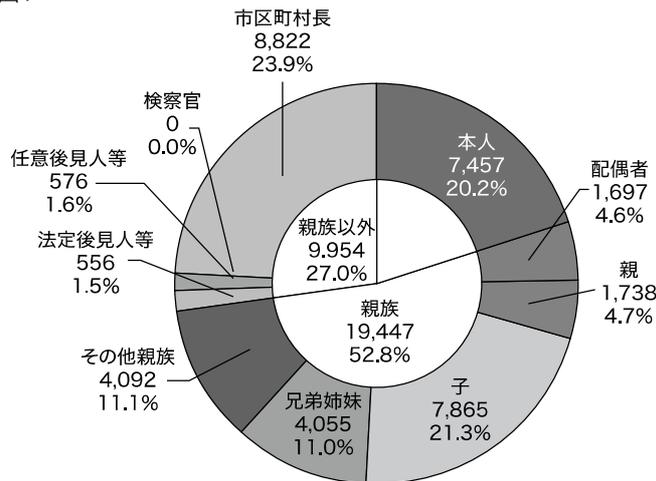
市長申立・後見人等報酬・成年後見利用支援事業

◆身寄りがいない人等のための市長申立て

第3回で触れましたが、申立てができるのは「本人、配偶者、4親等内の親族、市区町村長、検察官など」です。

社会の高齢化・少子化の進展に伴い、身寄りのない認知症高齢者や障害者が増加しており、親族等による後見開始等の申立てができないため、市区町村長申立てが増えています。最高裁判所が2021年3月に発表した2020年の申立て総数36,858件の内、市区町村長申立ては8,822件で実に23.9%を占めています。(図1参照)

図1



名古屋市の場合は市長の申立てに限るが各区の社会福祉事務所長に委任されています。市長申立の場合、親族の意向調査等のため、申立てに数か月かかっています。事例によつて

は、半年以上かかる場合もあります。成年後見もやい(以下「もやい」)では親族が申立てをする場合に、申立ての支援を行っています。2、3週間で申立書を作成し、家庭裁判所での受理面接にも親族申立人に行行して臨んでいます。

もやいとしては、親族が元気な内に申立てにつながればと思っています。

◆後見人等への報酬について

成年後見制度は判断不十分な人の財産や権利を守る制度ですが、利用すると弁護士等の専門職やもやいのような特定非営利活動法人の後見人等に対して費用がかかります。親族が後見人等に就いて、報酬をとらない場合でも、親族の場合は家庭裁判所から後見監督人という人が選任されて、本人の財産から後見監督人への報酬を支払うケースが近年増えています。障害基礎年金と作業所

での作業工賃がおもな収入である障害者にとつてこれらの負担は小さくはありません。

後見人等に支払う報酬の額は、後見人等の報酬付与の審判の申立てにより、家庭裁判所が審判によつて決定しています。

表

通常の後見事務を行った場合	基本報酬額 月額2万円
管理財産額が1000万円を超え5000万円	月額3万円～4万円
管理財産額が5000万円を超える場合	月額5万円～6万円

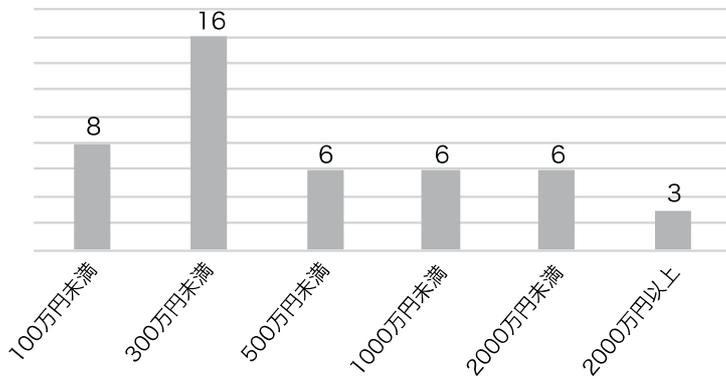
注) 身上監護等に特別困難な事情があった場合は基本報酬額の50%の範囲内で付加する。遺産分割協議、保険金請求等の特別の行為をした場合は付加報酬がある。

東京家庭裁判所が2013年1月1日に報酬の目安を公表して

図2

被後見人等の現金及び預貯金額

成年後見もやい：2021年3月末



おり、表はその概略です。もやいの2020年度の平均報酬額は月額1万9千円程度です。

図2は、もやいが2021年3月末に受任している45名の被後見人等の財産額（現金及び預貯金額）をグラフにしたものです。被後見人等の半数以上の方が300万円未満の財産額となっています。ま

た、被後見人等の3分の2の方が年収150万円以下となっています。国民一般の年収と比較すると、もやいが受任している被後見人の生活はかなり厳しく、貯えも少ないといえます。自宅やグループホームで生活している被後見人等は28名ですが、その内5名の方が生活保護を受給しています。（障害者支援施設に入所している方は生活保護移行防止のための配慮措置があります。）

財産や収入が少なくても、お金に心配せずに成年後見制度がいつそう利用しやすくなるのが求められます。

◆積極的に活用したい
成年後見利用支援事業

財産の額が少ない人であっても、成年後見制度の利用ができるように申立費用の助成と後見人等報酬の助成を自治体が行う制度が成年後見制度利用支援事業です。

名古屋市の場合、成年後見制度利用支援事業の対象になるのは、被後見人等が、

- (1) 生活保護受給者
- (2) 中国残留邦人等支援給付受給者
- (3) 市町村民税非課税世帯で、世帯の年間収入が単身世帯で150万円（世帯員が1人増えるごとに50万円加算）かつ世帯の預貯金額が単身世帯で350万円（世帯員が1人増えるごとに100万円加算）以下の者（世帯員が居住する家屋その他日常に必要な資産以外に利用し得る資産を所有していない）

のいずれかに該当する場合です。もやいが受任している45名の被後見人等の内、19名の方がこの成年後見利用支援事業を利用しています。

◆大切なことは、
親も支援者も一人で悩まず、
つながっていること

親御さんの中には、「親なきあと」のわが子の生活の不安のため、子どものために多額の貯えを残そうと思われている方もいますが、グループホームなど、生活するための支援が受けられ、安定した生活の場があれば、障害基礎年金、作業工賃の範囲で経済的にはやっていけそう、必要以上に貯えをつくる必要はありません。大切なことは、一人で悩まず、保護者会、相談支援事業所、利用している作業所やグループホーム等の職員と日常的につながっていることです。

お気軽にご相談下さい。

NPO 法人成年後見もやい

電話：052-746-9395

メール：koukenmoyai@hi3.enjoy.ne.jp

その人らしく働く 暮らす

Vol.93

仲間

「互いを思いやりながら」

ゆたか生活支援事業所なるお

渡辺駿二郎さん・弘子さん



あさがおホームは、3DKマンション2部屋のホームです。4人の仲間が生活していますが、ここで渡辺駿二郎さん・弘子さんご夫妻が暮らしています。

以前は同じ部屋で生活していたご夫妻ですが、現在は介護度が増し、弘子さんは職員室があるお部屋で、駿二郎さんは他の仲間と別の部屋で暮らしています。

食事の際には、駿二郎さんが弘子さんの部屋に來られ、アクリル板を挟んで、和気あいあいと食事をしています。弘子さんは、いつも駿二郎さんの事を気にかけており、何かある度に声掛けをしている姿が微笑ましいです。また、職員には言いにくいようなこともお二人で話をされ、日頃のストレスや不満なども解消されているようです。



朝食、夕食はいつも夫婦で和気あいあいと！

ご夫妻でドライブへ行かれた時には、車内に夫妻の明るい話し声が響きます。景色の感想をお互いに共有するなどして、リラックスできているのではないかと思います。もちろんマスクをし、窓を開け、コロナ感染には気を付けての取り組みです。これからも、このように仲睦まじい渡辺夫妻の生活を守るための支援を心掛けていきたいと思っています。

細江篤史

職員

「笑顔溢れる毎日に」

グループハウスなぐら 山口咲良



入職して1年になります。この1年を振り返ってみると、返ってみると、はじめは仕事を覚えることに一生懸命で、あまり気持ちに余裕がなかったと思います。

や身体機能、日々の体調等にに応じて様々な対応が必要になってきました。日々、関わる私たち生活支援員や看護師、栄養士、リハビリ部など、それぞれの目線での気付きや異変を職員同士で共有し、協力して支援を行っています。

グループハウスなぐらには、自分の思いを上手に言葉にできない方もいますが、その人なりの方法で伝えようとしてくれます。はじめは、それが何か分からず、申し訳ない気持ちでした。しかし、徐々に仕事に慣れ、心に余裕もでき、仲間とのコミュニケーションも以前より増えました。コミュニケーションをたくさんとることで、伝えようとしてくれていることが段々わかるようになってきました。そのおかげで、「コミュニケーションが楽しい」と思えるようになり、仲間とのたわいもない会話で、一緒に笑い過ぎす日々によりがいを感じています。

仲間の皆さんは年々、嚙下状態

また、定期的に理学療法士によるリハビリ活動や、近隣の医師による往診など皆さんの支えがあったり、仲間が支えられています。そうしたスタッフの一人として、仲間の「昨日と違うな」「いつもこうだっけ?」といった違和感を先輩職員に相談できる環境があることは、私にとっても心強いことです。2年目になりますが、これからも慢心せず、仲間一人ひとりが笑顔で過ごせるように関わってまいります。



今から歩きま〜す！